年度 <2016>　会計　　区分 <---->　所属 <701>

平成 30 年度当初予算(案)　事業別シート　　宇陀市 立病院事業特別会計

事業区分	継続	事業名	宇陀市立病院事業(収益的収入及び支出)

所管課	701	経営企画課	(宇陀市立病院)

事業の目的

住み慣れた地域において、安心で必要な医療のサービスが受けられる提供体制の充実が求められており、医師不足など地域医療を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、地域の医療需要に対応し、安定的な収益を確保するために、常勤医師の確保を最重要課題として位置づけ、また、引き続いて医業経営コンサルタントを活用し、中長期的な視野に立った経営改善及び医師人事考課に続き、医療職の人事考課制度を進める。新公立病院改革プランの目標達成を目指す。

宇陀市立病院事業特別会計予算

区分	No.	区分名
款		
項		
目		
細目		

根拠条例等	宇陀市立病院事業の設置等に関する条例
総合計画	基本計画　第2章　第2節　地域医療体制の充実

H30年度事業の概要

・病床数　176床
・年間患者数
・入院　50,005人(1日平均　137人)
・外来　98,820人(1日平均　405人)
・収益的収入　3,597,933千円(対前年度　1%増)
(前年度予算額　3,561,532千円)
・収益的支出　3,729,526千円(対前年度　1%増)
(前年度予算額　3,677,371千円)

事業の目標・成果
(これまでの成果,今後の見通し)

・平成28年度決算状況(決算統計)
・年間入院患者数　47,005人(1日平均　129人)
・年間外来患者数　92,222人(1日平均　380人)
・収益的収入　3,373,223千円
・収益的支出　3,420,925千円
差引　△ 47,702千円
・平成29年度決算見込み
・入院収益は、前年より4%増の見込み
・外来収益は、前年より2%増の見込み

財源の内訳　(単位:千円)

分担金	
使用料	
国　費	
県　費	1,000
市　債	
その他	371,608
一般財源	3,356,918
H30予算額	3,729,526
H29 当初予算額	3,677,371
H29 現計予算額	3,677,371
増減額	52,155

事　業　の　コ　ス　ト	平成28年度(実績)	平成29年度(見込)
決算額又は決算見込額(千円)	3,420,925	3,393,915
従事職員数【人工】		
人件費(人工×8,000千円)		
総事業費:人件費含む(千円)	3,420,925	3,393,915

【活動指標の根拠】　総合計画(行政評価)　・　総合戦略　・　その他(　　)

活動指標名	病床利用率					
活動指標の算式	年延入院患者数／年延病床数					
活動指標の実績(見込)	73.2	単位	%	75.9	単位	%
単位当たりコスト　(円)						

特定財源の状況

県補助金　1,000千円
一般会計補助金　81,957千円
一般会計負担金　180,889千円
資本費繰入益　108,762千円

備考

年度 〈2016〉　会計　区分 〈---〉　所属 〈701〉

平成 30 年度当初予算(案) 事業別シート　　宇陀市 立病院事業特別会計

事業区分	継続	事業名	宇陀市立病院事業(資本的収入及び支出)

所管課	701	経営企画課	(宇陀市立病院)

事業の目的	奈良県東部地域の中核病院としての役割を果たすべく、電子カルテ導入を含む高度医療機器の購入・既存機器等の更新を行う。

宇陀市立病院事業特別会計予算		
区分	No.	区分名
款		
項		
目		
細目		

根拠条例等	宇陀市立病院事業の設置等に関する条例
総合計画	基本計画　第2章　第2節　地域医療体制の充実

H30年度事業の概要	・資本的収入　432,000千円 (前年度予算額　7,500千円) ・資本的支出　743,091千円 (前年度予算額　269,994千円) ・事業内容(支出) ・建設改良費　572,660千円 ・企業債償還金　161,271千円 ・長期貸付金　9,160千円 ・収入の不足額は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金で補てんする。
事業の目標・成果 (これまでの成果,今後の見通し)	宇陀市立病院は、昭和29年の開院以来、地域の中核的な医療機関としてその役割を担ってきた。また将来に向けても地域医療の確保及び医療水準の向上に応えるため、課せられた役割と使命には大きなものがある。 電子カルテ導入・整備を推進することにより、住民の幅広い医療ニーズに対応できる医療機関としての機能と役割を担うことが可能となる。

財源の内訳　(単位:千円)	
分担金	
使用料	
国　費	
県　費	
市　債	324,000
その他	108,000
一般財源	311,091
H30予算額	743,091
H29 当初予算額	269,994
H29 現計予算額	269,994
増減額	473,097

事　業　の　コ　ス　ト	平成28年度(実績)	平成29年度(見込)
決算額又は決算見込額(千円)	285,223	231,426
従事職員数【人工】		
人件費(人工×8,000千円)		
総事業費:人件費含む(千円)	285,223	231,426
【活動指標の根拠】 総合計画(行政評価) ・ 総合戦略 ・ その他(　　)		
活動指標名		
活動指標の算式		
活動指標の実績(見込)	単位	単位
単位当たりコスト　(円)		

特定財源の状況
企業債　324,000千円 一般会計出資金　108,000千円

備考	

年度 会計 区分 所属
〈2016〉 〈1-1-1-〉 〈701〉

平成 30 年度当初予算(案) 事業別シート　　宇陀市 立病院事業特別会計

事業区分	継続	事業名	電子カルテ導入事業

所管課	701	経営企画課	(宇陀市立病院)

事業の目的

既存基幹システムの一つである医事会計システム及びオーダリングシステムの更新時期を迎えているため、これらの更新と合わせて市が推進する地域包括ケアシステムのより効率的な運用を視野に入れ、電子カルテ機能を備えたシステムの更新を実施する。

周辺病院の導入状況として、既に多くの開業医・クリニックでは電子カルテシステムが運用されており、当院以外の県内公立病院においても、全病院で電子カルテシステムが運用されている状況にある。

宇陀市立病院事業特別会計予算

区分	No.	区分名
款	1	資本的支出
項	1	建設改良費
目	1	有形固定資産購入費
細目		

根拠条例等	宇陀市立病院事業の設置等に関する条例
総合計画	基本計画　第2章　第2節　地域医療体制の充実

H30年度事業の概要

平成29年度に債務負担行為を設定し、システムの院内検討、発注仕様書策定、業務発注及び業者選定を実施しており、平成30年度は第1四半期から第3四半期までシステム構築、第3四半期から第4四半期でシステム稼働を目指す。

事業の目標・成果
(これまでの成果,今後の見通し)

電子カルテ導入のメリットは、次に掲げる点が挙げられ、これらのメリットを活用できるよう運用構築を行っていく。

◎情報管理の一元化(各部門システムとの連動)に伴う医療安全の向上
⇒現状、各診療科毎に作成している患者カルテについて、一つのデータ上で管理することが可能となり、同時に多職種・多部門での閲覧・情報共有が可能となる。

◎検索性・視認性の向上
⇒電子データ上での管理が可能になることにより、カルテ内の各種情報を簡易に検索・確認することが可能となる。また、同時に複数の情報も確認できる視認性が向上する。

◎会計待ち時間の軽減
⇒外来受診後の医事会計での入力精算のステップが省略され、患者視点においても会計待ち時間の軽減が実現可能となる。

財源の内訳　(単位:千円)

分担金	
使用料	
国　費	
県　費	
市　債	324,000
その他	108,000
一般財源	
H30予算額	432,000
H29 当初予算額	
H29 現計予算額	
増減額	432,000

事業のコスト	平成28年度(実績)	平成29年度(見込)
決算額又は決算見込額(千円)		
従事職員数【人工】		
人件費(人工×8,000千円)		
総事業費:人件費含む(千円)		
【活動指標の根拠】 総合計画(行政評価)・総合戦略・その他(　　)		
活動指標名		
活動指標の算式		
活動指標の実績(見込)	単位	単位
単位当たりコスト　(円)		

特定財源の状況

企業債　324,000千円
一般会計出資金　108,000千円

備考